

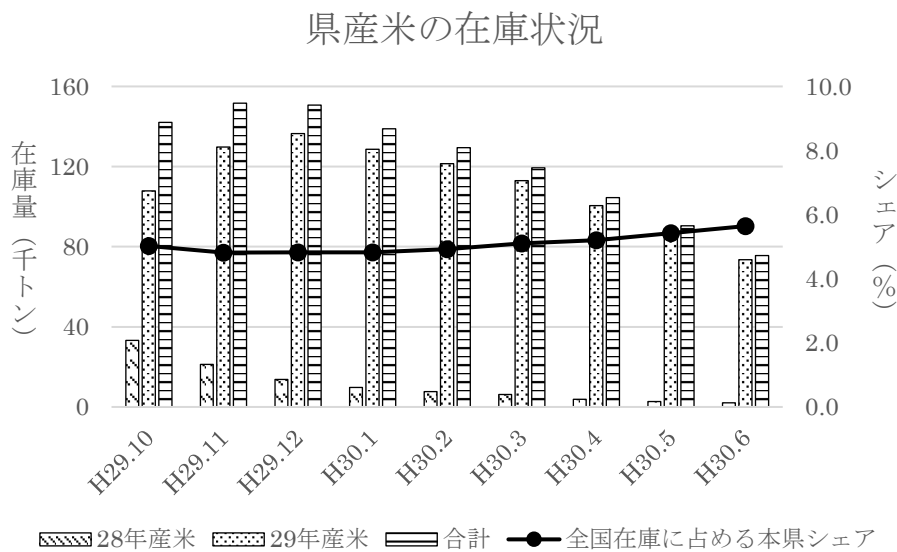
# 水田農業レポート（平成 30 年 8 月号）

## 【目的】

農業者の皆さまが需要に応じた生産・販売を進めていく上で、農業経営の改善や作付計画の判断に役立てていただくため、栃木県産米に関する需給動向や価格動向等の情報をお知らせします。

## 1. 主食用米

### (1) 県産米の在庫状況



(農林水産省「米に関するマンスリーレポート」より引用)

全国的に需給が引き締まっており、28・29年産米は同様の減少傾向を示している。全国の在庫量合計における本県シェアは、ほぼ横ばいである。(未検査米が含まれているため、合計は一致しない)

### (2) 県産米の相対取引価格の推移 (平成 29 年産米)

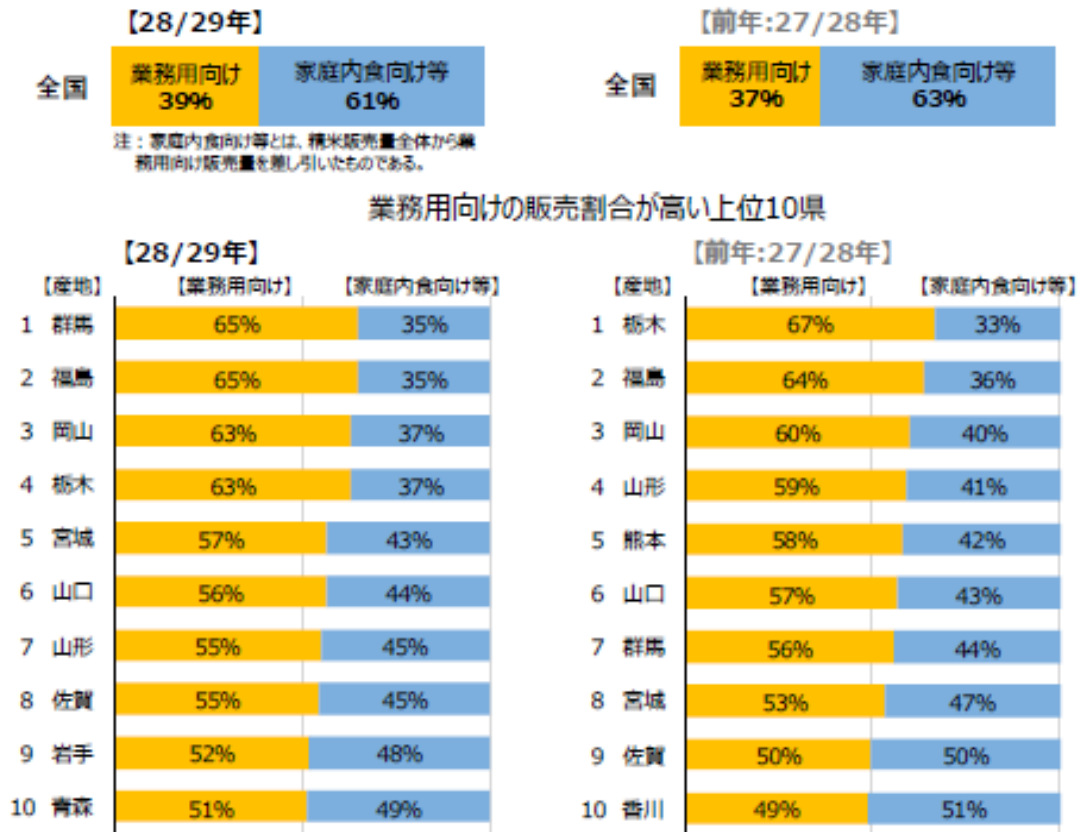
年.月	栃木県産(円/60kg)		
	コシヒカリ	あさひの夢	なすひかり
H30.1	15,753	15,077	15,494
H30.2	15,630	15,093	14,973
H30.3	15,403	15,085	14,956
H30.4	15,289	15,128	15,124
H30.5	15,419	14,838	15,355
H30.6	15,536	15,129	15,126
6月までの平均	15,463	15,016	14,973
昨年同期間	13,819	13,589	13,920

相対取引価格は、運賃、包装代、消費税を含む1等米の価格の加重平均

(農林水産省「米に関するマンスリーレポート」より引用)

全体的に需給が締まっているため、3銘柄とも価格は回復し、安定している。  
 特に、「あさひの夢」と「なすひかり」は価格が「コシヒカリ」並まで上昇している。  
 (昨年差) コシヒカリ : +1,644 円、あさひの夢 : +1,427 円、なすひかり : +1,053 円

(3) 業務用米の販売状況



\*年間玄米取扱量 4,000 トン以上の販売事業者が、精米販売を行った数量のうち、中食・外食等の業務用向けに精米販売した数量の割合（小売店等に精米販売し、その後、業務用に仕向けられたものは含まず）。

(農林水産省「米をめぐる状況について」より引用)

主食用米の需要が年々減少する中、業務用需要は堅調に推移しており、栃木では業務用向けの販売割合が6割超となっている。

## 2. 野菜

### ○ 加工・業務用野菜の契約価格と家計消費用の市場卸売価格との比較 単位:円/kg

品目	レタス	キャベツ	だいこん	にんじん	はくさい	たまねぎ	きゅうり	なす
加工・業務用①	162	76	76	86	73	93	303	316
家計消費②	164	86	83	135	82	102	297	342
①/②	99%	88%	92%	64%	89%	91%	102%	92%

資料:ALIC「平成25年度加工・業務用野菜仕入価格等調査」

注:同調査の市場卸売価格を家計消費用としている

※加工・業務用野菜をめぐる状況(平成30年3月、農林水産省)より

### 実需者からみた加工・業務用と家計消費用における基本的特性の違い

	加工用	業務用	家計消費用
品質内容 (品質、規格等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>用途別に多様</li> <li>① <u>カット・冷凍原料用では加工歩留まりを重視した大型規格</u></li> <li>② 加熱調理用では水分含有率が低い品種</li> <li>③ ジュース原料では製品としての色、食味等を重視</li> <li>鮮度を重視</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>用途別に多様</li> <li>① <u>調理・加工歩留まりを重視した大型規格</u></li> <li>② 加熱調理用では水分含有率が低い品種</li> <li>③ 外食・中食等の煮物用では煮くずれしにくい品種等を重視</li> <li>鮮度を重視</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外観等をより重視</li> <li>鮮度を重視</li> </ul>
内容量	<ul style="list-style-type: none"> <li>重量を重視</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重量を重視(品目によっては個数を重視)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個数を重視(定数詰め)</li> </ul>
出荷形態 (荷姿等)	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>ばら詰め、箱包装</u></li> <li><u>通い容器、段ボール</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>ばら詰め、箱包装</u></li> <li><u>通い容器、段ボール</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>袋詰め、小分け包装</li> <li>段ボール</li> </ul>
取扱形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>原体(ホール)</li> <li>皮むき、芯抜き等の前処理やカット、ペースト等の一次加工が行われたもの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原体(ホール)</li> <li>皮むき、芯抜き等の前処理やカット、冷凍、ペースト等の一次加工が行われたもの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原体(ホール)</li> </ul>
数量	<ul style="list-style-type: none"> <li>定時・定量(周年安定供給)</li> <li>加工場の稼働率等を考慮した供給</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定時・定量(周年安定供給)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>変動あり</li> </ul>
仕入価格	<ul style="list-style-type: none"> <li>定価(中・長期的安定価格)</li> <li>年間値決め、シーズン値決め等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定価(中期的安定価格)</li> <li>シーズン値決め、月間値決め等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>変動あり</li> <li>量販店は週間値決めが基本</li> </ul>

(注)加工・業務用需要は業種・業態別に多様であり、ここにまとめた加工・業務用特性は、家計消費用とは異なる基本的特性の主な点を簡単に記したものです。

加工・業務用野菜の契約価格の方が家計消費用の市場卸売価格よりも安価な傾向である。ただし、加工・業務用野菜は、①期間通して単価が安定、②出荷規格・形態が簡素であり省力化・規模拡大が可能、等のメリットが見込まれる。